

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ケニア共和国

キアムボゴコ地域開発プログラム(KEN-185647)



水の販売所の前で。ジェニファーさんと息子のジョシュア君(8歳)

チャイルドストーリー

家の近くできれいな水を汲むことができるようになりました

キアムボゴコ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むジェニファーさんは、8人の子どもの母親です。以前は水を汲みに遠くまで歩かなければなりませんでした。以前は汚れた水を飲んで下痢で命を落とす子どもが少なくありませんでしたが、きれいな水が飲めるようになり、子どもの下痢も減ったと言います。ジェニファーさんは水と衛生に関するセミナーに参加し、今は水管理委員会で利用者から料金を集める会計係を務めています。

「私たちの地域は、支援を受けて水と教育へのアクセスを得ることができました。多くの子どもたちが学校に行くため制服を支援してもらいました。また、出生証明書

を入手し、保健サービスを受けることができるようになった子どもたちもたくさんいます」と嬉しそうに話すジェニファーさん。いつか地域の近くに病院ができれば嬉しい、とさらなる地域の発展に期待しています。



水管理委員会の会計係を務めるジェニファーさん

水・衛生プロジェクト

給水システムを整備し、住民によるトイレ建設を推進しています

WVは地方政府や地域住民と協力し、貯水タンクの修繕や建設に力を入れています。2014年度は貯水タンク4つを修繕、3つを新たに建設し、地域内で安全な水を使える家庭の割合は41% (2013年) から57% (2014年) まで向上しました。5つの小学校にも雨水を貯めるタンクを支給し、子どもたちは毎朝登校する前に水汲みのために長い時間をかける必要がなくなり、授業に間に合うように登校できるようになりました。ADPでは、住民の間で水管理委員会を組織し、給水システムの維持管理も行っています。水管理委員会は水の販売所で利用者から20ℓあたり5ケニア・シリング (約6円) を徴収し、集めたお金は、例えば配管に不具合が生じた際に修繕費として使っています。



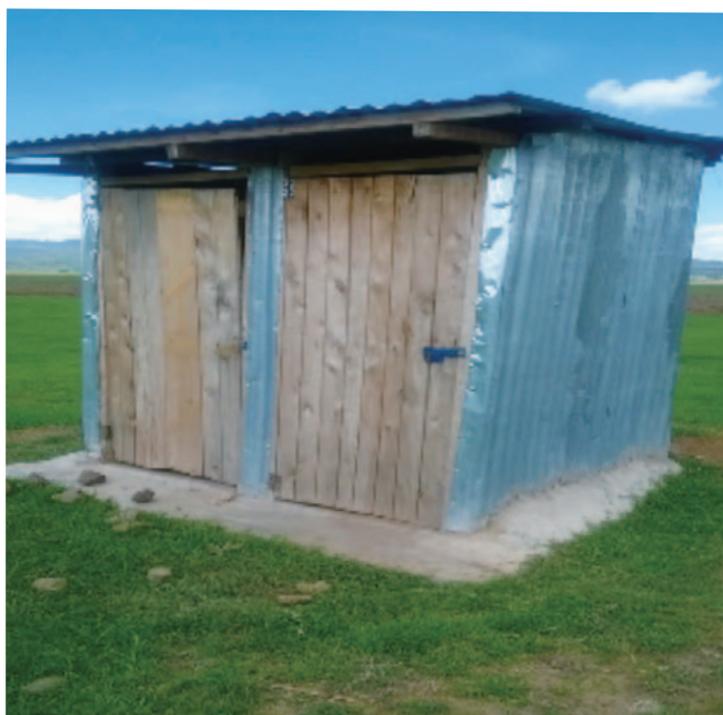
修繕された貯水タンクのうちの1つ



水の販売所できれいな水を汲む子どもたち

また、大きな成果の一つとして住民によるトイレの建設があります。この地域では野外で排泄をする人々が多いため、病気が蔓延しやすく、水も汚れやすくなってしまっています。特に女性は、人目を忍んで夜間や茂みなどで用を足そうとする際に暴行を受ける危険があります。WVはこれら野外排泄の弊害とトイレの利点について住民に啓発を行いました。その結果、住民の意思、労力、経済的負担により30のトイレを建設しました。まだまだ野外排泄を続ける人々は少なくありませんが、住民自らが行動を起こし、実際にトイレが建設されたことは大きな一歩です。

7つの貯水タンクの修繕、
建設が完了



住民が自分たちの力で作ったトイレ

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人



チャイルド・スポンサーへ送る
クリスマスカードを手にする子どもたち

たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

具体的には、「子どもの権利条約」（1989年に国連総会で採択）で規定されている子どもの権利（生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利の4本柱から成る）に関して住民や村長、宗教指導者などに啓発を行い、児童虐待や搾取を地域全体で防ぎ、そのような事例を発見した際にはWVや地方政府などに報告をするよう求めました。

特にケニアでは、法律で定められた年齢以前の早婚（主に女子）やFGM（女性器切除）といった慣習も根強く残っており、子どもの権利が守られているとは言い難い状況があります。一人でも多く子どもたちが、学ぶ機会を得、自らの可能性を開き、肉体的にも精神的にも健やかに成長できるよう、WVは地道な啓発活動を続けています。



チャイルド紹介

ヤギの提供を受けました。ミルクは貴重なタンパク源です

エリム君が通う小学校は、土壌の浸食を防ぐための植樹地域に指定され、WVから苗木の提供を受けました。木が植えられてから、暑さを避ける日陰ができ、学校の学習環境が良くなったと言います。また、生徒たちに手洗いキットが配布され、手洗いを励行した結果、下痢や嘔吐の発生率が大幅に減少しました。

エリム君の家庭には、栄養改善と収入向上のため、WVから乳用ヤギが提供されました。ヤギのミルクはエリム君と妹たちの貴重なタンパク源となっています。また、余ったミルクを販売し、学用品を賄うこともできるようになりました。「ご支援に感謝しています。スポンサーの皆さまに神さまの祝福がありますように」とエリム君は笑顔で話してくれました。



妹と一緒に犬と遊ぶ6年生のエリム君（13歳）



ADPスタッフ・インタビュー

Q.どんな仕事をしていますか。

貯水タンクや水源からタンクまでのパイプライン、そしてトイレなど、水・衛生分野のインフラを開発・管理する仕事をしています。また、地域と行政機関とのパイプ役として、インフラ開発のための調査、設計、監督を行うための連絡調整をしています。水源と給水施設の運営管理には地域の人々から構成される水管理委員会が責任を持つことになっています。委員会のメンバーが施設を適切に運営・維持できるように、メンバーの能力向上を支援するのも大切な仕事です。

Q.仕事をする中で大変なことは何ですか。

地域の人々の間で安全な水へのニーズは非常に高いのですが、限られた予算の中でそのニーズに対応しなければならないので大変です。

Q.この仕事の何にやりがいを感じていますか。

地域の人々とともに働くことにやりがいを感じています。私もこの地域に住んでおり、この地域の一員です。人々と関係を構築しながら、地域の課題を一緒に解決していくことができることが私の喜びです。



キアムボゴコADP 水・衛生プロジェクト担当スタッフ マシボ・ムロンゴ (36歳)

会計報告

KEN-185647

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

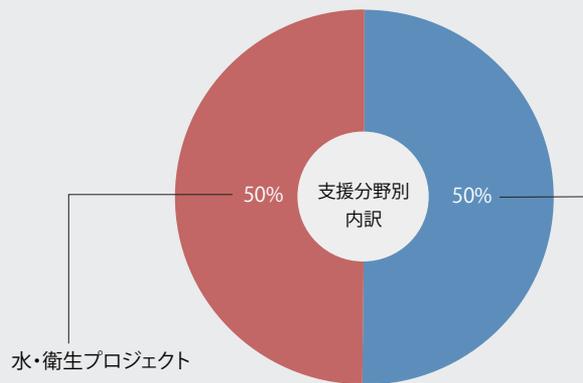
チャイルド・スポンサーシップ	37,655,497
当期支援額	37,655,497
前期繰越金	-602,207
プログラム支援額合計	37,053,290

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	18,590,283
水・衛生プロジェクト	18,463,007

プログラム支出額合計	37,053,290
次期繰越額	0

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトでは、チャイルドとの手紙の交流のほか、子どもの権利に関する啓発活動、出生証明書発行手続きの支援、地域内で最も貧しい子どもたちへの医療支援などを行いました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp